

年末出し電照栽培におけるスプレイギク・マーブル系品種のさし芽時期について

柴田 浩・水越 洋三・畠山 順三

(秋田県農業試験場)

Time of Herbaceous Cutting in Marble Type Cultivars, Sprays
Chrysanthemum for Shipping at the Year-End in Light Culture
Hiroshi SHIBATA, Yozō MIZUKOSHI and Junzō HATAKEYAMA
(Akita Agricultural Experiment Station)

1 ま え が き

秋田県の花き生産における切花ギクのウェイトは大きく、昭和53年には花き総生産額の52%を占め、生産の中心として今後ますます増加することが期待されている。

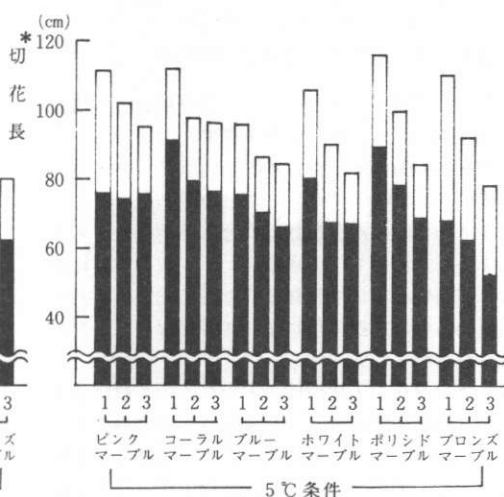
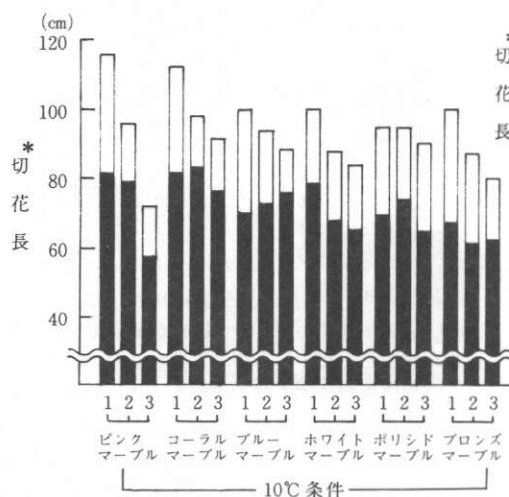
我が国では、一輪仕立ての栽培が大半であったが、昭和49年ごろ、摘芽、摘らいを行わずに省力的に生産できるスプレイギクが紹介され、近代感覚にマッチした将来性のある切花として注目を集めている。

このようなことから、スプレイギクについて、本県における年末出しの電照栽培への適応性を明らかにするため、昭和53年、前報では18品種を用いてその栽培特性について検討し、いずれの品種も電照感応性が高いこと、ならびに年末出しの電照栽培における品種別の電照の打ち切り時期を明らかにした。

しかし、7月4日さし芽では、マーブル系品種は生育過剰となり、商品性の著しい低下がみられたことから、引き続き、さし芽時期が切花品質に及ぼす影響について検討した。その結果を報告する。

2 試 験 方 法

1 供試品種： マーブル系6品種



*黒：分枝発生位置を示す。

図1 さし芽時期と切花長、分枝発生位置

2 試験区： 表1に示す。

表1 試験区

区	さし芽 時 期	供 試 条 件		
		加温条件	電 照 期 間	点灯時間帯
1	7月10日	最低気温	8月20日～10月10日 (10℃)	深夜 12:00～
2	7月17日	10℃, 5℃	8月20日～10月5日 (5℃)	2:30
3	7月24日	(11月以降)		

3 試験規模： 1区24株

4 耕種概要

定植： (1) 8月6日, (2) 8月13日, (3) 8月19日。

摘心： (1) 8月13日, (2) 8月20日, (3) 8月29日。

栽植距離： 床幅1m, 株間25cm, 条間16.7cm, 6条植え
施肥量(a当たり)：基肥……たい肥250kg, 硫加磷安
12号12kg, 熔燐7kg, 菜種粕4kg, FTE 0.3kg, 追肥…
NK化成23号1.5kg, 菜種粕2kg。

3 結果および考察

1 採花時期

採花期は、いずれの品種も12月下旬であり、さし芽時期や供試条件による差はなかった。

2 切花長と分枝発生位置

図 1 に示すとおり、切花長は品種や供試条件によって多少の変動が認められたものの、さし芽時期が遅れるほど短くなる傾向を示し、7月10日さし芽で約110cm、7月17日さし芽で約95cm、7月24日さし芽で約85cmであった。

分枝発生位置は、いずれも下から60～80cm程度と比較的高かった。これに対して、53年に実施した7月4日さし芽では、切花長が150cm～170cmと高く、また、分枝発生位置は、下から60～80cmで相対的に低かった。

分枝の発生位置と採花作業の難易との関係を見ると、切花長に対して分枝の発生位置が高い場合には、ネットの展開位置との関連で明らかに作業が容易であった。

3 分枝長と開張幅

さし芽時期と分枝長との関係を見ると、分枝長は、7月17日さし芽と7月24日さし芽との間ではその差は非常に小さかったが、さし芽時期が遅れるほど小さくなる傾向を示し、7月10日さし芽で約15～20cm、7月17日と7月24日さし芽では約11～13cmであった。

開張幅は、いずれも9～12cm程度で大きな差はなかった(図2)。

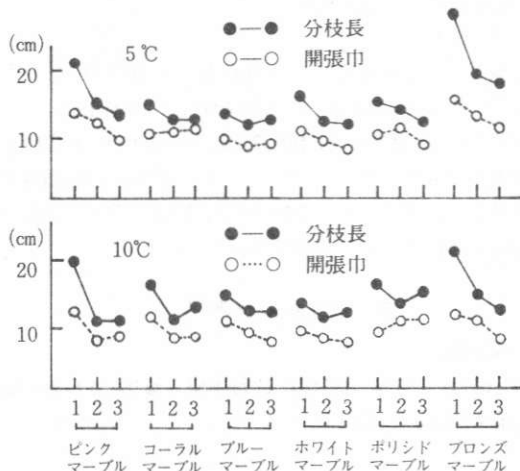


図2 さし芽時期と分枝長・開張幅

これを、53年に実施した7月4日さし芽の場合(分枝長45～70cm、開張幅25～40cm、伸びすぎて、しまらない草姿)と比較すると、極めてバランスの良い草姿といえる。

4 花数構成

表2に示すとおり、1次分枝数は、さし芽時期による差はいずれも4～6本程度で、小さかった。2次分枝数については、さし芽時期の早い場合に多くなる傾向がみられたものの、品種あるいは加温条件によっても異なり、一定の傾向が認められなかった。

総花数は、5～9花、1次分枝1本当たりの花数は1～2花であった。53年に実施した7月4日さし芽の場合(1次分枝数は3～5本、2次分枝数は、少ない品種で10本程度、多い品種で18本程度、また、1次分枝1本当たりの花数は3～4花もあり、均一のとれない花房であった)と比較すると、全般に均一な平咲きの正常花房を形成した。

表2 花数構成

a. 10℃条件

品種名	区	分枝数			花数	
		一次 (本)	二次 (本)	計 (本)	総数 (花)	一次分枝 一本当り (花)
ピンク マーブル	1	4.6	6.6	11.2	8.6	1.87
	2	4.8	0	4.8	4.8	1.00
	3	4.8	3.2	8.0	6.8	1.42
コーラル マーブル	1	5.0	4.4	9.4	7.6	1.52
	2	4.6	0	4.6	4.6	1.00
	3	4.4	0.4	4.8	4.6	1.05
ブルー マーブル	1	4.8	5.8	10.6	8.4	1.75
	2	5.0	1.2	6.2	5.6	1.12
	3	5.0	1.6	6.6	5.8	1.16
ホワイト マーブル	1	5.2	2.0	7.2	6.2	1.19
	2	5.6	2.2	7.8	6.8	1.21
	3	5.2	1.2	6.4	5.8	1.12
ポリシド マーブル	1	4.2	3.2	7.4	6.0	1.43
	2	5.0	1.4	6.4	5.8	1.16
	3	4.8	2.6	7.4	6.4	1.33
ブロンズ マーブル	1	4.6	5.0	9.6	7.8	1.70
	2	5.2	3.6	8.8	7.0	1.35
	3	4.6	0.8	5.4	5.2	1.13

b. 5℃条件

品種名	区	分枝数			花数	
		一次 (本)	二次 (本)	計 (本)	総数 (花)	一次分枝 一本当り (花)
ピンク マーブル	1	4.6	6.0	10.6	8.2	1.78
	2	5.0	6.8	11.8	9.4	1.88
	3	5.0	0	5.0	5.0	1.00
コーラル マーブル	1	4.8	1.6	6.4	5.6	1.17
	2	5.6	1.0	6.6	6.2	1.11
	3	5.8	1.2	7.0	6.4	1.10
ブルー マーブル	1	5.0	2.4	7.4	6.4	1.28
	2	6.0	0	6.0	6.0	1.00
	3	5.6	0.8	6.4	6.2	1.11
ホワイト マーブル	1	5.0	1.2	6.2	5.6	1.12
	2	5.6	1.4	7.0	6.4	1.14
	3	5.6	0	5.6	5.6	1.00
ポリシド マーブル	1	4.4	0.4	4.8	4.6	1.05
	2	4.8	0.8	5.6	5.2	1.08
	3	4.8	0	4.8	4.8	1.00
ブロンズ マーブル	1	4.6	6.4	11.0	8.4	1.83
	2	4.8	4.8	9.6	7.8	1.63
	3	4.0	3.0	7.0	5.6	1.40

以上の結果、年末出し電照栽培におけるマーブル系品種のさし芽の時期は7月10日～15日が適当で、この時期にさし芽をすることによって整った草姿となり、均一で平咲きの正常花房を形成するなどの点からみて市場性の高いものが得られると考えられた。また、この時期にさし芽した場合には切花長と分枝発生位置との関係で、採花作業が容易となる。なお、7月17日および7月24日のさし芽では、切花長が100cm以下であり、また、分枝長、開張幅がやや短く、しなやかさに欠ける。